

## 鉄道のまち -美濃太田駅開業100年- 文化の森 ☎28-1110

今年で美濃太田駅は開業100年。「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。



1921-2021

### ⑤ 古井駅の開業

古井村(現在の古井町)は、明治年間より養蚕業が盛んで、大正7(1918)年にそれまであった蚕糸製糸が、郡是製糸美濃工場として合併され、事業が拡大されると、村へ移り住む人々が増加していました。

古井・森山地区は、高山方面や八百津方面へ分岐する交通の要衝地として栄えていましたが、大正11(1922)年の高山本線古井駅の開業を契機に、さらに発展することになります。

古井駅開業後は、駅周辺に一気に商店街が形づくられ、古井村全体の人口も増えたことから、大正13(1924)年に町制を施行し、古井町となりました。

古井駅の建設は当初設計画にありませんでしたが、地元住民の強い要望により開業が実現しました。開業の日は、下の写真のように全村を挙げて祝賀行事が行われました。

ダムが建設される以前は古井

遊船組合がライン下り事業を行っており、森山には料理旅館なども営業していました。また小山観音の初午祭の時には美濃太田―白川間を臨時列車が走り、駅からの人波があふれるようだったそうです。

開業当時に植えられたという夫婦松は伐採され、2018年に旧駅舎も取り壊され、現在は無人駅となっています。



▲古井駅の開業(大正11年)

文化の森企画展「鉄道のまち」展  
(12月18日～3月6日)を開催